

令和7年度 北海道紋別高等養護学校 学校評価について（分析と考察）

1 実施方法・評価期間

生徒評価、保護者評価、教職員評価に分けて、11月後半～12月にかけて実施した。

2 生徒評価（全校生徒回答）について（回答率 81%）

番号	質問項目	はい	いいえ	わからない
1	学校生活は充実していますか。	67.9%	10.7%	21.4%
2	学校の授業は分かりやすいですか。	75.0%	10.7%	14.3%
3	体力が向上し、生活リズムを整えることはできていますか。	62.5%	10.7%	26.8%
4	卒業後の生活を意識して、自分の行動に責任をもつことはできていますか。	57.1%	16.1%	26.8%
5	相手の気持ちを考えて行動することができますか。	55.4%	7.1%	37.5%
6	自分から感じの良い挨拶ができるようになりましたか。	75.0%	10.7%	14.3%
7	学校であなたの気持ちを分かってくれる先生はいますか。	78.6%	8.9%	12.5%

- 「2：学校の授業が分かりやすい」は比較的高い評価だった。引き続き「個別最適な学び」を意識した授業改善に取り組み、「わかる、できる、やってみる」を意識した授業を展開する。
- 「4：自分の行動に責任をもつ」は「いいえ」の割合が最も高かった。作業学習、職業を中心に、自分の役割に責任をもって行動する意義を学び、生徒自身が意識しながら実践できるよう取り組む。
- 「5：相手の気持ちを考える」は「わからない」の割合が最も高かった。自立活動や道徳を中心相手意識や場に応じた行動を学び、学校生活、寄宿舎生活で実践し、自信をもって他者と関わっていく態度を今後も育てる。また、学んだ成果を現場実習で発揮できるよう、日々の指導に努める。
- 「6：感じの良い挨拶」は比較的高い評価だった。挨拶は就労に限らず、卒業後の生活において基本的な要素であるため、学校全体で相手を意識して感じの良いと思ってもらえる挨拶の指導を継続する。

8 紋別高等養護学校の良いところを教えてください（抜粋）

話がわかりやすい みんなが挨拶を自ら行っている 給食が美味しい みんな明るい

困ったことがあつたら相談してくれる 進路のことを知れる 学校全体皆仲が良い

生徒同士がほどよい距離感をもって接することができる 卒業後の就職活動

9 紋別高等養護学校を改善するためのアイディアがあれば教えてください（抜粋）

学校でもスマホOK ごみを集める活動を増やす 寄宿舎にネットをつないでほしい

学校を楽しめるためにいろいろなポップで気分を良くすること 人の話を聞く姿勢をとること

先生と生徒の距離感 ストレスをなくせるようにしたい コミュニケーション

10 学校や寄宿舎でいじめや暴力はありませんか。あれば教えてください。（解決したことは書かなくてよいです）

ある なし 23 押されたりすることがあります 現時点ではなし 知らない

□生徒自身が学校に誇りをもち、自分たちが主体となって学校生活を改善していくよう、今後も生徒を中心とした学びを展開していく。また、学校生活の改善を自分事として考えていくよう、HRや委員会活動などを通して、学校のためにできることを自ら考えていく時間を設定する。

■いじめは絶対に許さないという姿勢で生徒指導に当たり、日頃の情報共有を積極的に行いながら、生徒同士の関係性の変化を見逃さないよう配慮する。特に学年間及び学校と寄宿舎間の情報共有に努める。

3 生徒評価（寄宿舎生徒回答）について（回答率 83%）

番号	質問項目	はい	いいえ	わからない
11	寄宿舎の生活は充実していますか。	66.0%	14.0%	20.0%
12	身の回りのことを自分でできるようになってきましたか。	78.0%	4.0%	18.0%
13	寄宿舎であなたの気持ちを分かってくれる先生はいますか。	66.0%	4.0%	30.0%

- 「11：寄宿舎の生活の充実」は「いいえ」の割合が最も高かった。集団生活の中で決まりやルールの必要性を理解し、その中で充実につながる工夫を検討していくよう今後も改善に努める。また、生徒発信の取組も推進し、生徒主体の寄宿舎生活が過ごせるように引き続き指導する。
- 「12：身の回りのことを自分で」は比較的高い評価だった。寄宿舎生活を過ごす中で、自分のことは自分で行う意識が育ってきている。卒業後の生活を見据えて、日常生活で必要なことを自分で行う経験を重ね、就労する上で基盤となる生活力を高めていくよう、今後も指導を継続する。
- 「13：気持ちを分かってくれる先生」は「わからない」の割合が最も高かった。職員の勤務形態も一定ではない中、担当以外の生徒とも信頼関係を築くことができるよう、引き続き生徒の意見を傾聴し生徒に分かりやすく、伝わりやすいアドバイスができるよう努める。

14 寄宿舎生活の良いところを教えてください（抜粋）

- 食堂のご飯が美味しい □先輩たちが優しい □社会に出るために必要な力を身に付ける
 □学年問わずみんなと交流できる □自立する力がつく □楽しいし友達増えた □ゲームができる

15 寄宿舎生活を改善するためのアイディアがあれば教えてください（抜粋）

- ごみの分別を簡単に □Wi-Fiがあれば余暇がもっと楽しくなる □生徒の意見を取り入れる
 □余暇時間やスマホの時間を増やしてほしい □なんでも我慢すればいいで済ませないでほしい

16 学校生活や寄宿舎生活で気付いたこと、先生たちに伝えたいことがあれば書いてください。（抜粋）

- いつもありがとう □困ったときは誰かまわすいつでも相談に乗ってください
 □生徒のことをもっと教育してくれないと学校生活が厳しいです □アイスの持込可にしてください
 □あんまり寄宿舎の先生と分かり合えないときがある □給食の味を薄めにしてください
 □寄宿舎の同室の下級生へのアドバイスの仕方が分からぬ

□集団生活での人間関係の拡がりを生徒自身が意識できるよう、日課や行事などを通して生徒同士が協働して取り組めることができるよう努める。

■寄宿舎の置かれた環境の中で、実現可能なことと難しいことを見極め、実現可能な取組は実現に向けて計画的に進めることができるよう、引き続き努める。

生徒評価の分析と考察

○学校教育を進める上で、生徒と教師が信頼関係に基づいた教育を行うことは必要である。高校生としての規律や、卒業後の社会生活を見据えた社会人基準に基づく行動を求めていくことに加え、他者との関わりやコミュニケーションの向上に必要な指導、支援を行い、メリハリある指導に心掛ける。

○青年期の生徒の感情の揺れ動きや思いを受け止め、丁寧な聞き取りを通して自分自身で方向性を出していけるように努める。また、生徒との適切な距離感への意識を高め、卒業後に自立した大人として成長できるよう適切な課題設定に配慮する。特に寄宿舎生活では、学年縦割りでの関わりも多く、他者への適切な伝え方に迷う生徒も多い。相手意識をもって関わることを基本に、ケースに応じた適切な伝え方を具体的に指導することも継続する。

「社会人基準に基づく行動」 「適切な距離感」 「相手意識をもった言動」 「信頼関係」

4 保護者評価（全保護者回答）について（回答率 67.3%）

A:よくあてはまる…4点 B:あてはまる…3点 C:あまりあてはまらない…2点 D:まったくあてはまらない…1点 ?:わからない…0点
A～Dの評価点を上記に設定し、基準点を3.00として評価する。

番号	質問項目	A	B	C	D	?	評価点(平均)
1	子どもは、働く力が身に付いている。	4	28	1	0	0	3.09
2	子どもは、心豊かにたくましく育ってきている。	3	26	4	0	0	2.97
3	子どもは、他者の気持ちを考え思いやりのある行動をとることができるようになってきている（SNSの利用、異性との関わり、言葉遣いなど）。	1	31	1	0	0	3.00
4	学校の個別の教育支援計画や個別の指導計画は、子どもの実態や課題を踏まえ、学習の成果や成長の様子を分かりやすく書いている。	14	19	0	0	0	3.42
5	学校だより、学級通信、ホームページなどは充実しており、積極的に学校の様子を知ることができる。	10	19	3	0	1	3.22
6	学校は、子どもや保護者が見通しをもって進路選択ができるよう、十分な情報を提供しながら進路指導を行っている。	9	19	5	0	0	3.12
7	学校（寄宿舎を除く）は、いじめや暴力がなく、子どもは安心して過ごすことができている。	15	12	3	0	3	3.40
8	学校の教職員（寄宿舎職員は除く）は、子どもの健康や指導上の問題が生じた場合など、保護者に必要な情報を素早く伝え、連携して指導している。	15	16	1	0	1	3.44
9	学校は、保護者や地域住民が授業や学校行事を参観する機会を、工夫しながら設けている。	10	22	0	0	1	3.31
10	PTA活動は、保護者と教職員が協力して工夫した活動が行われている。	7	23	0	0	3	3.23

- 全体的に基準の3.00を超える評価をいただいた。しかし、「C:あまりあてはまらない」への回答もあるため、全項目において今後も保護者と連携しながら進めていく必要がある。
- 「1:働く力」については平均点を超えたものの、働く力を身に付けることを教育課程の基盤としている本校においては改善すべき項目である。作業学習や職業などのさらなる授業改善に努め、日頃の実践で身に付けた力を現場実習で発揮し、働く力が身に付いていると自他共に実感できるよう努める。
- 「2:心豊かにたくましく」については、平均を下回った。また、「3:他者の気持ちを考え、思いやりのある行動」も基準の3.00であり、今後も改善が必要な項目である。他者の気持ちを考える難しさを共通理解しつつ、言葉遣いの改善や積極的な協働を促進し、学校全体で思いやりのある行動を意識することが心豊かな部分につながるため、自立生活や道徳を中心に学んだことを実践できるよう努める。また、伝えるだけでなく、受け止める、または受け流す力についても指導を行っていく。
- 「7:安心して過ごす」については、いじめを積極的に認知しながら、相手にとって嫌な思いをさせている言動に気付き、すぐに改善を促す取組を継続する。また、生徒間の関係性の把握や、学校や寄宿舎での様子について情報共有を促進し、生徒間のトラブルを初期段階で対応し、解決に導いていくよう今後も家庭とも連携しながら取り組む。
- 「8:保護者への情報提供」については、最も評価点が高かった。今後とも健康面や指導面について、保護者への素早い情報共有に努め、共通理解に基づいた対応を行っていく。
- 「9:学校行事の参観」「10:PTA活動」も平均点を上回る評価をいただいた。今後も地域と協働した教育をより推進し、地域資源を活用した創意工夫ある教育活動に取り組む。また、PTAとも連携し子どもたちのために手を取り合いながら、よりよい教育に向けて連携を深めていきたい。

5 保護者評価（寄宿舎生保護者回答）について（回答率 67.5%）

番号	質問項目	A	B	C	D	?	評価点（平均）
I1	子どもは、基本的生活習慣や身辺処理が身に付いてきている。	1	26	0	0	0	3.04
I2	寄宿舎の個別の指導計画は、子どもの実態や課題を踏まえ、保護者と共通理解のもと学習の成果や成長の様子が分かりやすく書かれている。	7	20	0	0	0	3.26
I3	寄宿舎職員（学校職員は除く）は、子どもの健康や指導上の問題が生じた場合など、保護者に必要な情報を素早く伝え、連携して指導している。	14	13	0	0	0	3.52
I4	寄宿舎（学校を除く）は、いじめや暴力がなく、子どもは安心して過ごすことができている。	12	10	3	0	2	3.36

- 全体的に基準の3.00を超える評価をいただいた。今後も寄宿舎生活を通して、生徒が自立に向けて自分で考え、取り組み、対応できる力を身に付けていけるよう指導を継続する。
- 「I1：基本的生活習慣や身辺処理」については、平均点を超えたものの「A：よくあてはまる」の回答数も少なく、基本的生活習慣を身に付けることを目指す寄宿舎においては改善すべき項目である。日課を通して、基本的生活習慣を繰り返しの中で定着を図り、着実に身に付けていけるよう指導する。また、改善に向けた相談や工夫など、生徒とやりとりしながら本人に合った方法で定着していけるよう、生徒への日々の指導に努める。
- 「I3：保護者への情報提供」については、最も評価点が高かった。寄宿舎生活では、急な体調不良など突発的な対応が求められることもあり、保護者への情報提供と連携が不可欠な部分である。引き続き健康面の把握に努め、安心安全な寄宿舎生活に向けて保護者と協働していきたい。

I5 その他、お気付きの点やご意見などがありましたらお書きください。（自由記述）

- 学校生活も寄宿舎生活も本当によく子供を見てくれていると思います。親も子も成長をもってお返しできるようにしたいと心から思っています。引き続きよろしくお願いしますの気持ちでいっぱいです。
- 学校の先生も舎の先生も子どものことをよく見て指導してくれていると思います。安心して預けることができています。今後もよろしくお願い致します。
- こちらの学校に入学し本人も良かったと思っています。私、保護者も大変良い学校で安心しています。
- アンケート結果は1つの参考として、今後もより一層生徒の成長につながる教育を期待します。

保護者評価の分析と考察

- 「働く力」「心豊かにたくましく」といった、本校教育の基盤となる部分の指導を改善し、保護者と連携しながら、着実に身に付けていけるよう指導を継続する。
- 特に「他者の気持ちを考え、思いやりのある行動」は難しい部分でもあるため、言葉遣いの改善や積極的な協働の促進など、学校全体で取り組んでいくとともに、保護者と連携し、家庭でも同じ方向性での指導を行っていけるよう取り組む。
- 「保護者への情報共有」は、高い評価をいただいた。今後も継続して素早い情報共有に努め、共通理解に基づいた対応を行っていく。特に寄宿舎における健康面への対応については、保護者への状況提供と連携が不可欠な部分であるため、安心安全な寄宿舎生活に向けて保護者と協働する。
- 今後も保護者との信頼関係を構築し、信頼関係に基づく教育活動を行っていく。

「本校教育基盤の着実な指導」 「言葉遣い・協働」 「素早い情報共有」 「信頼関係」

6 教職員評価について（回答率 98%）

A:よくあてはまる…4点 B:あてはまる…3点 C:あまりあてはまらない…2点 D:まったくあてはまらない…1点 ?:わからない…0点
A～Dの評価点を上記に設定し、基準 3.00 を基準として評価する。

番号	質問項目	A	B	C	D	?	評価点(平均)
1	【学校経営】学校の教育目標やグランドデザインを踏まえて日常の教育活動を行っている。	12	51	4	0	0	3.12
2	【教育課程】生徒の障害特性を踏まえ、卒業後の生活（働く生活・地域生活）を見据えた教育課程を編成し指導している。	14	46	6	0	1	3.12
3	【授業時数】各教科、作業学習（職業）、道徳、特別活動（HR活動、生徒会活動、学校行事）、自立活動（自立生活）及び総合的な探究の時間の年間授業時数は適切である。	7	40	5	0	2	3.04
4	【学習指導（各教科）】生活に結び付いた知識、技能、学びに向かう力などを身に付けることができる学習内容となっている。	8	39	6	0	1	3.04
5	【学習指導（作業学習・職業）】生徒一人一人の能力や適性を的確に把握し、将来の職業生活や社会自立に必要な知識、技能、態度について総合的に指導を行い、生徒の働く力を高める内容となっている。	10	40	4	0	0	3.11
6	【学習指導（指導内容・方法）】生徒一人一人の障害の状態や特性に応じて学習内容や指導方法を工夫し、生徒が見通しと意欲をもち、分かる、できる、やってみる指導（授業）を行っている。	12	37	4	1	0	3.13
7	【個別の教育支援計画】保護者や関係機関と連携しながら、生徒の卒業後の姿を見据えた支援計画を作成している。	11	36	4	0	3	3.14
8	【進路指導】生徒や保護者が見通しをもって進路選択できるよう情報を提供しながら進路指導を行っている。	14	35	4	0	1	3.19
9	【校内支援】学年主任、寮務主任、コーディネーターを中心とした校内支援の充実が図られている。	9	44	12	0	2	2.95
10	【指導体制】効率的、効果的な指導体制が組まれるとともに、生徒と向き合う時間や授業準備及びHR事務等の時間が確保されている。	4	41	18	1	3	2.75
11	【個別の指導計画】生徒一人一人の実態や課題を踏まえて、具体的な指導目標と指導の手立てが設定されている。	11	48	7	0	1	3.06
12	【地域連携】生徒が地域を学び、地域の方と主体的に関わりながら地域と連携した教育活動が行われている。	11	39	14	2	1	2.89
13	【生徒指導】生徒理解と信頼関係の構築に努め、生徒一人一人の良さを生かした指導の工夫を図っている。	11	45	11	0	0	3.00
14	【いじめ対策】いじめの未然防止を図り、生徒の情報共有に努めている。	16	45	6	0	0	3.15
15	【研究・研修】研究の目的や内容・方法が適切であり、教職員の専門性や授業力の向上に結びついている。	7	38	18	1	3	2.80
16	【保健管理】生徒の健康把握が日常的に行われ、心身の病気の予防や早期発見に努めるとともに、生徒のストレス対応能力、自己健康管理能力向上のための指導が適切に行われている。	9	49	7	0	2	3.03
17	【保護者対応】保護者からの相談や要望に対して、教職員が連携して誠実に対応している。	19	49	2	0	1	3.24
18	【組織運営】協働的で機能的な組織運営に努め、各部署内及び部署間で適切に業務分担や連携を図り効率的に業務を推進している。	7	41	20	0	3	2.81
19	【危機管理】事故、事件、災害に適切に対応できるよう、必要な訓練を行うとともに、非常時における教職員個々の役割が明確で、組織化されている。	12	47	10	0	2	3.03

20	【人権の尊重】生徒の人格を尊重し、適切な言葉遣いや態度で関わっている。	18	45	6	1	1	3.14
21	【服務規律】教育公務員としての自覚を常に持ち、体罰の防止や個人情報保護及び交通違反やハラスメントなどの事故防止に努めている。	25	32	13	1	0	3.14
22	【学校事務】施設・設備や財務の適切な管理・執行が行われている。	17	46	6	0	2	3.16
23	【情報発信】学級通信やホームページなどで積極的な情報発信に努めている。	16	50	4	0	1	3.17
24	【PTA活動】職員及び保護者が連携・協力して行い、充実した活動となっている。	17	48	2	0	4	3.22
25	【働き方改革】働き方改革に向けて、計画的な業務遂行や業務内容の見直しなど積極的に取り組んでいる。	7	49	12	2	1	2.87

26 学校運営の改善充実の視点から、各評価項目に関して提案や改善案がありましたら、その内容を具体的に記入してください。(自由記述)

- 業務の精選や行事削減を進める。 PTA活動にZoomを取り入れるなど、参加を工夫する。
- 仕事は仕事、組織は組織として割り切って行動することが重要だと考える。個人的な好き嫌いで対応を左右することは、組織内の信頼関係を損ない、やがて保護者や外部からの信頼を失わせ、生徒に不利益しか与えない。意思決定や生徒対応は、主觀ではなく事実と根拠に基づき（助言や異論を十分に検討したうえで）、組織的に行うべき。個人の保身や仲間内の結束が優先される状況は、早期に是正されるべき。
- 地域活用は、外出活動などでさらに利用する機会を増やしていく必要がある。
- 研究研修は、専門的な内容も取り入れる一方で、本校が初任の指導員向けに基本的な内容も充実させたい。
- 分掌業務の円滑な割り振りのためチーフ会議を再導入したが、開催頻度や進め方を調整する必要を感じた。
- 情報発信については、パソコンのアップデートができずネットにつなげられないパソコンが多くある状態での、ホームページ運用などの体制見直しを考える必要があると考える。
- 寄宿舎業務（行事含む）の整理をすべき。常に何かに追われている印象である。

基準の3.00を超える評価が19項目に対し、下回る評価が6項目あり、今後の対策が必要である。

- 「9：校内支援」では、生徒情報の共有を引き続き行いながら、学校全体で目指す生徒像に基づき指導方針を学校、寄宿舎で統一しながら指導・支援を行っていく必要がある。
- 「10：指導体制」及び「18：組織運営」は最も評価点が低かった。次年度に向けて校務分掌の再編を行い、業務を効率化するとともに平準化し、適材適所な校内体制を組織していくよう努める。
- 「12：地域連携」では、今年度検討を進めている教育課程再編の柱の一つとして「地域貢献」を掲げており、普通科では地域と連携した学習を進めていく。職業学科では、即売会の機会の工夫や受注など地域のニーズに応じた学習を推進する。また、紋育バンクを活用した学習にも引き続き取り組む。
- 「15：研究・研修」では、自由記述にもあるとおり、専門的な内容に加え、職員の経験年数に応じた研修内容の工夫に努める。また、作業学習（職業）の全校的な研修も必要である。
- 「25：働き方改革」では、パソコン環境の改善を校内で可能な範囲については最大限努める。支障が出る部分については、端末の共有や情報共有の方策を工夫しながら改善に努める。

教職員評価の分析と考察

○現在、進めている教育課程の再編に伴い、目指す生徒像を全職員が意識し、本校の教育の柱である「働く力」「生活する力」を身に付けるための指導方針を確立し実践する必要がある。そのため、各学年で系統的に指導する内容を整理し、研修を通して全職員が意識を高め、共通理解に基づいた指導を行う。

○校務分掌の再編に伴い、業務の精選を促進するとともに、適材適所な校内体制を組織する。ウェルビーリングな組織づくりに向けて、全職員が相手意識をもち思いやりをもった業務推進に努める。

「目指す生徒像の共有」 「相手意識をもった連携」 「適材適所な校内体制」 「計画的な業務遂行」